

(様式 1)

令和 6 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立豎川中学校
校長名	稲垣 吉実

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全教科、全学年で全国正答率を上回っている。・2年生は、経年比較で全ての教科で、前年度を上回っている。・2、3年の理科は、経年比較で前年度を上回っている。・2、3年の英語は3観点とも全国平均を+5pt以上を達成した。1年も2観点で全国平均を+5pt以上であった。・3年は5教科15観点中11観点で全国平均正答率との差が+5pt以上を達成した。	<ul style="list-style-type: none">・1年の社会、理科で主体的に学習に取り組むの観点で、全国平均正答率を若干下回っている。・1年は、国語と数学で墨田区の平均正答率を下回っている。・3年は、経年比較で理科以外の4教科で、前年度を下回っている。・3年生の経年比較でDE層が英語以外増えている。・全体的にC層の割合が少なく2極化を示している。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学級の規範意識は3学年とも標準スコアで全国値を+2P以上上回り、学級風土は良好である。生活習慣も3学年とも全国値を上回った。・自己肯定感では、「学校の日々の活動で成長したなと感じることがありますか」と「夢中になった、やる気が出た授業がありますか」の質問で3学年とも標準スコアで全国値を上回っている。・学習習慣・意欲では、「授業の予習や復習をしていますか」「学んだことは社会に出た時に役立つと思いますか」「授業や日常生活の中でどうしてだろうと思ったことは調べていますか」等で3学年とも標準スコアで全国値を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・3学年とも社会性の「発信力」の標準スコアが全国値を下回っている。・自己肯定感では、「ものごとを行うとき、次に何を行うべきか判断して行動していますか」の質問で3学年とも標準スコアで全国値を下回っている。・学習習慣・意欲では、「テストで間違えた問題は後でやり直してありますか」で2、3学年が標準スコアで全国値を下回っている。また「ノートの取り方について、自分なりに工夫していますか」で1、2学年が標準スコアで全国値を下回っている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・家庭学習ノート(一日1ページ以上)の取組を行い、家庭からの励ましや年間パーフェクト賞の表彰などで家庭学習の習慣化につながっている。・漢字・数学・英文・地理コンテストに向けての家庭学習(家庭学習ノート)が定着し、合格率が向上して「やればできる」という意識が高ま	<ul style="list-style-type: none">・各検定の受検率が伸びない。英検、漢検、数検の3級取得。トリプルスリーを奨励しているが、挑戦する生徒をさらに増やし、トリプルスリーの表彰者を増やす。・授業力向上のための校内研修で年2回お互いの授業を見合う互見週間を設定しているが、あまり機能していないので、さらに工夫を加

<p>っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の全国学力調査の結果より【知識・技能】観点 6.0%、【思考・判断・表現】観点 1.9%全国平均正答率を上回っている。 ・数学の全国学力調査の結果より【知識・技能】観点 5.9%、【思考・判断・表現】観点 3%全国平均正答率を上回っている。 	<p>え、授業力向上に務める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査の生徒質問において、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づきますか。」や「お互いに協力して課題の解決に取り組んでいますか」の回答で、「当てはまる」の回答が、全国に比べ10%近く下回っている。
---	---

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 今年度の校内研修のテーマ「個別最適化に向けての学習法の研究」を校内で共有し、タブレットを活用し、学力向上に向けた取り組みにつなげる。

- ・年3回の校内研修で「指導の個別化」と「学習の個性化」に焦点を当て、個々の生徒に応じて異なる学習方法で学習を進めることや探究学習の進め方等外部講師を招いて講演会を実施するなど学校全体で研修し、基礎学力の徹底を図りつつ、特にDE層の減少につなげる。
- ・全校体制で授業の中でICTを有効活用し、「キュビナ」や「ミライシード」「ふりかえりシート」を活用しながら学力の定着を図る。

(2) 授業内での目当ての提示や振り返り、アウトプットの徹底など授業力の向上を目指す取り組みと、自己肯定感を高める取り組みを行う。

- ・年2回の研究授業や年2回の授業互見習慣でOJTを活性化させ、教員の授業力向上を図る。
- ・「学習ふりかえり期間」に、学習状況調査の正答率が50%未満の問題を中心に学習する。
- ・毎日の管理職の授業観察を通して、教室環境の整備や授業規律の徹底を図る。
- ・年2回のi-checkの結果を分析し、社会性や自己肯定感、学習習慣・意欲を上げるための学級での取り組みに活かす。
- ・年4回の学習コンテスト(漢字・数学・英文・地理)を通して学習習慣を身に付けさせることで、自己肯定感の向上を図る。

(3) 補習学習や家庭学習の必要性や重要性を意識させ、モチベーションを高める取り組みを行う。

- ・すみだ塾として、放課後学習教室や試験前の質問教室などの取り組みを、進路指導部を中心に計画を立て実施する。
- ・家庭学習ノート(一日1ページ以上)の取組を行い、毎日の点検の徹底や家庭からの一言を推奨し、家庭学習の定着を図る。
- ・単元テストや小テストを行う機会を短いサイクルで設けテストの範囲を家庭学習と連動させる。
- ・学習コンテスト前は、出題される問題を繰り返し学習させることで学習習慣を身に付けさせる。

3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・墨田区学習状況調査において、全観点の平均正答率を全国との差が+5ptの教科を増やす。
- ・常に振り返り学習を意識させ、同一集団の標準スコアが前年度を下回る教科をなくす。
- ・個別最適な学びを進め、全教科のDE層を減らし、B層の人数を増やす指導を行う。
- ・授業の中での協働的な学びを重視し、アウトプットを徹底し、社会、理科の学力向上を目指す。